

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275100441		
法人名	医療法人社団駿甲会		
事業所名	グループホーム実夢大覚寺	ユニット名	1階ユニット
所在地	静岡県焼津市大覚寺918番地		
自己評価作成日	平成23年2月20日	評価結果市町村受理日	平成23年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成23年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所が誇りをもって言えること、それは『利用者さんの笑顔』です。いつ来ても、どなたが来ても、ここ(実夢大覚寺)では、どの利用者さんも笑顔で出迎えてくれます。初めて来所される方が共通して持たれる印象は、利用者さんの明るい表情、戸惑いの無い落ち着いた雰囲気です。生活されていることです。嬉しい時も淋しい時も常に寄り添い、穏やかで楽しく安心できる暮らしがここ(実夢大覚寺)にはあります。そんな利用者さんの安心できる暮らしを支えているのは、職員は勿論のこと、地域(ご近所)の皆様や利用者家族のご理解とご協力、同一法人の医療機関の協力体制が大きな力となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者スタッフと共に寄り添い、明るい笑顔に包まれて穏やかに暮らしている様子がうかがえた。本体である医療法人は地域医療の要として重要な地位を占め、また、当ホームも地域密着型としての責を負って運営されており、現在入居希望の待機者が多数いる。ホーム長の指導の下に職員の参加意欲が旺盛で、利用者が如何にしたら自分らしく暮らせるのかを追求する手段として、アイデアを出したり、会議・研修等においてサービスの質的向上に努力している姿が見られた。運営推進会議を起点として、地域社会との交流も盛んに行なわれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の目標【地域との連携を深める】これを22年度の目標として施設全体で取り組んできました。また、日々の取り組みの目標があり課題は残っているが実践している。	法人の基本的な理念の基に、ホームとして独自の理念を設定している。理念を実践するため、職員からのアイデアで「えがおカレンダーの日々の指標」を壁面に貼り付けた取り組みも行なわれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設当初から自治会に加入しており、日常のお付き合いから、地域催事の協同参加や協力、施設内行事には近隣の方々も参加協力しています。	開設に当たり、自治会の婦人部を主とした内覧会を実施した後、お茶会を開いてホームを理解してもらい、お茶会は現在も続いている。地域の催事やホームの行事にはお互いに参加協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ヘルパー研修生を受け入れ、GHでの生活や認知症高齢者の理解、関わり方や方法について指導している。また、近隣との関わりの中では避難訓練や行事等参加の時などを活用しお話をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の外部評価結果を受け、22年度は家族会とは別の開催日を設け実践しました。運営推進会議では委員同士の意見交換が活発に行われています。1年末の餅つきは合同で行いましたが、委員とご家族の繋がりがもてきたようです。	2ヶ月に1回、市の職員等参加の下に定期的に開催されている。活発な意見交換が行われており、出された意見等は、職員に周知されサービスの質的向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や市内GH連絡会にご出席頂いています。今年度の「餅つき」にもご参加頂き、入居者やご家族、地域住民や職員と一緒に行うことができました。	市の担当者とは、報告・連絡・相談など密接な関係づくりがされている。より良い関係の下に、共にサービスの質的向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロ宣言」の事業所として、開設当初から職員が一丸となって取り組んでいます。	マニュアルを整備し、研修や会議で禁止対象行為を正しく理解し、「身体拘束ゼロ」の事業所として、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待を見逃さないよう、利用者のいつもと違う表情や状態、皮膚の痣や内出血等にも細心の注意を払っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を必要なケースが無い。ただし、職員に学ぶ機会をつくりたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて丁寧に説明し同意を得ているが、以降でも不安な点や心配な点はその都度説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会、運営推進会議と合同開催の際にご意見を伺い、可能な限り施設の運営に反映させて頂いています。	利用者とは日常の生活をする中で、家族等とは運営推進会議や家族会、訪問時など、あらゆる機会を捉えて意見等を聴取している。意見等は職員共通の認識の下で運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の月例スタッフ会議で意見交換を行っている。(年中行事や個別ケアや業務改善等)	申し送りノートやミーティング、毎月のスタッフ会議等で職員の意見を吸い上げている。また、雰囲気づくりとして「コーヒーを飲んで雑談する時間」を設け、良いアイデアは即実行に移されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の基準として、永年勤続リフレッシュ休暇や誕生日休暇、賞与支給(正職員・パート職員)や時間外手当などがあり準じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では1年間を通じて毎月(内容が異なり、テーマ毎に事例発表がある)研修を設けており、当施設でも参加をしている。法人外では実践者研修や管理者研修、ケアマネ研修など受ける機会を設け、人材育成の取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度中期から「焼津市GH連絡会」を開催。(3ヶ月に1回)各施設から課題を提示し、意見交換を行って課題解決やサービスの質の向上に向け取り組みを始めた。市職員も参加されています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや不安を、行動や会話から受け止め、対応していく中で信頼関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や施設での取り組みについて一緒に考え、時には一緒に苦戦することもあります。職員はご家族と沢山の会話を持ち”何でも話せる関係”の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人・ご家族の話を聴き、求めているものは何か、どのような対応がベストか密に連絡を取り、利用者本人が不安なく生活できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共に過ごす中で、利用者本人の思いや苦悩を共有し、嬉しい時、楽しい時も一緒に笑い合える関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や面会時には、普段の様子を必ず伝えるように心がけています。協力的なご家族ばかりではありませんが、共に支えていきたいと働きかけをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方とは、電話や手紙のやり取り、外出外泊も希望に応じ支援しています。いつでも気軽に面会や訪問ができる雰囲気づくりに努めています。	元部下が毎年尋ねてきたり、電話や手紙のやり取りなど、馴染みの人との関係継続の支援や、外出・ドライブ・買い物など利用者の希望に応じた支援も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性的でプライドが高い方が多く衝突もしばしばありますが、状況を観て職員が調整役になっています。また、一緒に作業や活動を通して、利用者同士が協力しあえるように配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙のやり取りや行事への参加呼びかけを行っています。また、ご家族の中にはおやつの差し入れや、遊びに来られる方もおります。他施設へ移られた方のご家族からの相談や職員が面会に伺うなど、縁を大事にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思伝達が困難な方が多く、普段の生活や会話からヒント(希望・要望)を得るよう努めています。昨年の外部評価でアセスメント形式の工夫の取り組みが課題に挙がりましたが、今年度は新たな様式に取り組む事ができませんでした。	入居時にそれまでの経歴や生活歴を聴取した上で、毎日の介護の中で利用者との会話、行動から思いや意向を汲み取り、それを家族等との面談により確認し、スタッフ会議、朝夕の申し送りで職員全員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴の中で、最も必要な情報(若い頃)に関しては、本人しか知り得ない情報も多く、ケアをしていく中で多くの会話をもち把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方や心身の状態(健康面を含め)理解した上で、できる限り有する能力を発揮していただけるよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人や家族から意向(思い)を伺い、日常の様子や新たな課題について意見を出し合い、介護計画を作成している。	スタッフ会議等で交換している情報をもとに、ケアプラン会議で職員全員で取り組み、意見等を出し、介護計画の見直しを3ヶ月毎実施している。家族等の意見は来訪時に面談、聴取し、確認をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに日常の記録や介護計画も綴じてあり、いつでも確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族状況に応じて受診の援助や買い物の付き添い、散歩やドライブ(外食等)の支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員のメンバーには民生委員や近隣住民、地域包括支援センターの職員が参加され利用者が安心してここで暮らができるように協力関係を築いています。防災関係や、ボランティア(手芸や音楽系)の紹介も多くあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の大半は医療連携体制を整えている同一法人の医療機関に受診しており、事業所に近いこともあって定期的な受診・特定検診の支援やインフルエンザ予防接種の往診等の連携を図っています。	利用者18人中17名が同一法人の医療機関を主治医としている。毎週月曜を定期受診日と決め通院介助を行い、家族等への連絡を随時実施している。週1回看護師の来訪もある。他の1人の受診は家族が同伴している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が訪問。健康チェック表の記録を元に日頃の健康管理や医療面での相談や助言等の支援がなされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は施設での情報を提供し、主治医・本人と家族・施設管理者で話し合い、速やかな退院ができるように努めている。また、入院中も面会に行き状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人とご家族の安心と納得を得られるよう、早期から医師と職員が連携をとり、当事業所でする最大限の支援を検討している。現在は法人としては看取りはしない方針で急変や憎悪の場合は同一法人の医療機関で受け入れ体制は整っている。	看取りはしない法人の方針を入居時に説明し、文書でも家族等の確認を得ている。急変や状態悪化の場合は、主治医、家族等と早期から話し合い、同一法人の医療機関への受け入れ等の対応を決定している。こうした対応について職員に徹底されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルにそって連絡や対応をおこなっている。スタッフ会議の中で再確認を行って周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いの元、火災訓練や地震対応訓練を行っている。その際は利用者・利用者家族・地域住民(近隣・消防団)も参加しました。	年2回防災訓練を実施。近所の方も参加し避難誘導訓練をしたり、運営推進会議と同時開催の際は消防団長が参加し指導もあった。また、地域の防災訓練にも参加し、スプリンクラーの設置、食糧、備品の備蓄もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心やプライドを傷つけないように、言葉遣いに配慮したケアに取り組んでいます。	利用者の思いを大切に、言葉遣いにも注意し気持ちのこもった介護に取り組んでいる。個人情報を漏らさないことを職員に徹底するよう指導している。	一覧表形式の面会受付票を使用している。個人情報保護の観点から一覧表形式に替えて、面会者が他人分を見ることができない個別票(単票)形式に変更することを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定ができない方には、気長に待ってみたり二者択一にしてみたりと、個々のペースに合わせた支援を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の希望にそって「何をしてほしいのか」を見出し、押し付けにならないように心がけて支援しています。皆さん生き生きと作業をされています。時々仕事の取り合いも・・・。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の利用者が多く、おしゃれには興味深々です。職員もアドバイスし洋服選びをします。また、ショッピングにもでかけますしお化粧品もされます。職員の服装にも興味をもたれますので楽しくアドバイスしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	いつも美味しい匂いがしているため、食事時間を楽しみにされています。また、盛り付けや配膳など毎日、毎食がとても賑やかで皆さん食欲旺盛です。	利用者は、職員が作る食事を職員とともに、それぞれのペースで楽しんでいる。利用者は盛り付け、テーブル拭き、食器の片付け等、できることを手伝っている。庭の菜園の収穫物が食材として食卓に上ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考え献立を作っています。(一ヶ月まとめて作成) また、食事摂取量もチェックし栄養状態の把握にも努めています。食欲が無かったり減少するような場合は主治医に報告し指示を受けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じて個別に支援しています。義歯の消毒は夕食後にポリドントに一晩浸けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握し、さりげなく誘導しています。失禁があっても間に合わず床や洋服を汚してしまっても、「トイレに行きたい」「トイレでしたい」という気持ちを大切にケアに取り組んでいます。	排泄チェック表も参考にして、利用者一人ひとりのサインを把握してトイレに誘導している。おむつを使わず、布のパンツにパッドを使用する等、トイレに行って排泄することを大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促しや、個別に乳製品を取り入れています。腹部マッサージや運動も取り入れています。便秘気味でお薬を飲んでいる方が多いです。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	急変時に備え、日中の職員が多い時間帯で希望を聞き入浴の支援をしています。自己決定できない利用者にはタイミングを見計らってこえをかけています。	週2、3回、午前10～12時頃と午後2～3時頃の職員が多い時間帯で利用者の希望に沿って入浴している。ゆず湯や菖蒲湯を楽しむ時もある。入浴を拒む利用者には言葉遣いに注意する等誘導方法を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活パターン(睡眠や体調)に応じて、いつでも休息を取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに薬局から戴ける処方箋を綴じてあり職員が情報を共有できるようにしている。服薬の管理・確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味活動や興味があるもの、お料理の手伝いなど個々のできることを見極め、楽しく過ごしていただけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外食、美容院など利用者本人の希望に添って職員と家族が協力しお出かけの支援している。	暖かい日には散歩に出掛けたり、ホーム前の広い駐車場でレクリエーション、ボール遊びをし、皆で歌ったりして楽しんでいる。買い物や外食そして年に1、2回は同一法人の病院の車を使ってドライブにも出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭に関しては自己管理されている方もあり、お出かけの際にご自身で支払が出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により随時支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々のお部屋から出ると居間兼食堂に皆さん集まって来ています。唱歌をながしたりテレビを付けるとゆったりとくつろいでいます。	南向きで明るい居間、食堂の壁面には、利用者の書道作品、写真、塗り絵等とともに、ホームの催事開催時の楽しそうな写真も飾られ、家庭的な雰囲気が醸し出されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子で“ひなたぼっこ”をしたり、居眠りをしたりと思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居宅から入居された方は家具なども居間まで使用していた物もあり個性的な雰囲気になるが、施設利用が長かった方は家具等ありませんので、ご自分で作られた作品などを身近に置いて雰囲気づくりに努めています。	居室にはベッドと広いクローゼットが備え付けられている。利用者はそれぞれ、机や椅子、家族の写真、テレビ、時計、タンス、位牌等馴染みの品を持ち込んでいるほか、自身の作品等が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別の日課表や予定。物の場所を変えない(手すり・椅子・車椅子や補助具)ように注意を払い、事故なく安全に生活できるように工夫しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275100441		
法人名	医療法人社団駿甲会		
事業所名	グループホーム実夢大覚寺	ユニット名	2階ユニット
所在地	静岡県焼津市大覚寺918番地		
自己評価作成日	平成23年2月20日	評価結果市町村受理日	平成23年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成23年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所が誇りをもって言えること、それは『利用者さんの笑顔』です。いつ来ても、どなたが来ても、ここ(実夢大覚寺)では、どの利用者さんも笑顔で出迎えてくれます。初めて来所される方が共通して持たれる印象は、利用者さんの明るい表情、戸惑いの無い落ち着いた雰囲気です。生活されていることです。嬉しい時も淋しい時も常に寄り添い、穏やかで楽しく安心できる暮らしがここ(実夢大覚寺)にはあります。そんな利用者さんの安心できる暮らしを支えているのは、職員は勿論のこと、地域(ご近所)の皆様や利用者家族のご理解とご協力、同一法人の医療機関の協力体制が大きな力となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の目標【地域との連携を深める】これを22年度の目標として施設全体で取り組んできました。また、日々の取り組みの目標があり課題は残っているが実践いる。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設当初から自治会に加入しており、日常のお付き合いから、地域催事の協同参加や協力、施設内行事には近隣の方々も参加協力しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ヘルパー研修生を受け入れ、GHでの生活や認知症高齢者の理解、関わり方や方法について指導している。また、近隣との関わりの中では避難訓練や行事等参加の時などを活用しお話をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の外部評価結果を受け、22年度は家族会とは別の開催日を設け実践しました。運営推進会議では委員同士の意見交換が活発に行われています。1年末の餅つきは合同で行いましたが、委員とご家族の繋がりもできたようです。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や市内GH連絡会にご出席頂いています。今年度の「餅つき」にもご参加頂き、入居者やご家族、地域住民や職員と一緒に行うことができました。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロ宣言」の事業所として、開設当初から職員が一丸となって取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を見逃さないよう、利用者のいつもと違う表情や状態、皮膚の痣や内出血等にも細心の注意を払っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を必要なケースが無い。ただし、職員に学ぶ機会をつくりたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて丁寧に説明し同意を得ているが、以降でも不安な点や心配な点はその都度説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会、運営推進会議と合同開催の際にご意見を伺い、可能な限り施設の運営に反映させて頂いています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の月例スタッフ会議で意見交換を行っている。(年中行事や個別ケアや業務改善等)		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の基準として、永年勤続リフレッシュ休暇や誕生日休暇、賞与支給(正職員・パート職員)や時間外手当などがあり準じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では1年間を通じて毎月(内容が異なり、テーマ毎に事例発表がある)研修を設けており、当施設でも参加をしている。法人外では実践者研修や管理者研修、ケアマネ研修など受ける機会を設け、人材育成の取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度中期から「焼津市GH連絡会」を開催。(3ヶ月に1回)各施設から課題を提示し、意見交換を行って課題解決やサービスの質の向上に向け取り組みを始めた。市職員も参加されています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや不安を、行動や会話から受け止め、対応していく中で信頼関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や施設での取り組みについて一緒に考え、時には一緒に苦戦することもあります。職員はご家族と沢山の会話を持ち”何でも話せる関係”の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人・ご家族の話を聴き、求めているものは何か、どのような対応がベストか密に連絡を取り、利用者本人が不安なく生活できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共に過ごす中で、利用者本人の思いや苦悩を共有し、嬉しい時、楽しい時も一緒に笑い合える関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や面会時には、普段の様子を必ず伝えるように心がけています。協力的なご家族ばかりではありませんが、共に支えていきたいと働きかけをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方とは、電話や手紙のやり取り、外出外泊も希望に応じ支援しています。いつでも気軽に面会や訪問ができる雰囲気づくりに努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性的でプライドが高い方が多く衝突もしばしばありますが、状況を観て職員が調整役になっています。また、一緒に作業や活動を通して、利用者同士が協力しあえるように配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙のやり取りや行事への参加呼びかけを行っています。また、ご家族の中にはおやつの差し入れや、遊びに来られる方もおります。他施設へ移られた方のご家族からの相談や職員が面会に伺うなど、縁を大事にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思伝達が困難な方が多く、普段の生活や会話からヒント(希望・要望)を得るよう努めています。昨年の外部評価でアセスメント形式の工夫の取り組みが課題に挙がりましたが、今年度は新たな様式に取り組む事ができませんでした。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1人ひとりの生活歴の中で、最も必要な情報(若い頃)に関しては、本人しか知り得ない情報も多く、ケアをしていく中で多くの会話をもち把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの過ごし方や心身の状態(健康面を含め)理解した上で、できる限り有する能力を発揮していただけるよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人や家族から意向(思い)を伺い、日常の様子や新たな課題について意見を出し合い、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに日常の記録や介護計画も綴じてあり、いつでも確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族状況に応じて受診の援助や買い物の付き添い、散歩やドライブ(外食等)の支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員のメンバーには民生委員や近隣住民、地域包括支援センターの職員が参加され利用者が安心してここで暮らができるように協力関係を築いています。防災関係や、ボランティア(手芸や音楽系)の紹介も多くあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の大半は医療連携体制を整えている同一法人の医療機関に受診しており、事業所に近いこともあって定期的な受診・特定検診の支援やインフルエンザ予防接種の往診等の連携を図っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が訪問。健康チェック表の記録を元に日頃の健康管理や医療面での相談や助言等の支援がなされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は施設での情報を提供し、主治医・本人と家族・施設管理者で話し合い、速やかな退院ができるように努めている。また、入院中も面会に行き状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人とご家族の安心と納得を得られるよう、早期から医師と職員が連携をとり、当事業所でも対応できる最大の支援を検討している。現在は法人としては看取りはしない方針で急変や憎悪の場合は同一法人の医療機関で受け入れ体制は整っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルにそって連絡や対応をおこなっている。スタッフ会議の中で再確認を行って周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いの元、火災訓練や地震対応訓練を行っている。その際は利用者・利用者家族・地域住民(近隣・消防団)も参加しました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心やプライドを傷つけないように、言葉遣いに配慮したケアに取り組んでいます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定ができない方には、気長に待ってみたり二者択一にしてみたりと、個々のペースに合わせた支援を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の希望にそって「何をしてほしいのか」を見出し、押し付けにならないように心がけて支援しています。皆さん生き生きと作業をされています。時々仕事の取り合いも・・・。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の利用者が多く、おしゃれには興味深々です。職員もアドバイスし洋服選びをします。また、ショッピングにも出かけますしお化粧品もされます。職員の服装にも興味をもたれますので楽しくアドバイスしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	いつも美味しい匂いがしているため、食事時間を楽しみにされています。また、盛り付けや配膳など毎日、毎食がとても賑やかで皆さん食欲旺盛です。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考え献立を作っています。(一ヶ月まとめて作成) また、食事摂取量もチェックし栄養状態の把握にも努めています。食欲が無かったり減少するような場合は主治医に報告し指示を受けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じて個別に支援しています。義歯の消毒は夕食後にポリドントに一晩浸けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握し、さりげなく誘導しています。失禁があっても間に合わず床や洋服を汚してしまっても、「トイレに行きたい」「トイレでしたい」という気持ちを大切にケアに取り組んでいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促しや、個別に乳製品を取り入れています。腹部マッサージや運動も取り入れています。便秘気味でお薬を飲んでいる方が多いです。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	急変時に備え、日中の職員が多い時間帯で希望を聞き入浴の支援をしています。自己決定できない利用者にはタイミングを見計らってこえをかけています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活パターン(睡眠や体調)に応じて、いつでも休息を取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに薬局から戴ける処方箋を綴じてあり職員が情報を共有できるようにしてある。服薬の管理・確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味活動や興味があるもの、お料理の手伝いなど個々のできることを見極め、楽しく過ごしていただけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外食、美容院など利用者本人の希望に添って職員と家族が協力しお出かけの支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭に関しては自己管理されている方もあり、お出かけの際にご自身で支払が出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により随時支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々のお部屋から出ると居間兼食堂に皆さん集まって来ています。唱歌をながしたりテレビを付けるとゆったりとくつろいでいます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子で ”ひなたぼっこ” をしたり、居眠りをしたりと思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居宅から入居された方は家具なども居間まで使用していた物もあり個性的な雰囲気になっているが、施設利用が長かった方は家具等ありませんので、ご自分で作られた作品などを身近に置いて雰囲気づくりに努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別の日課表や予定。物の場所を変えない(手すり・椅子・車椅子や補助具)ように注意を払い、事故なく安全に生活できるように工夫しています。		